



北の大地で絆の踊り

▲札幌市内で踊る香美市の踊り子

第26回YOSAKOIソーラン祭りが、6月7日から5日間、札幌市で開催され、大勢の観客でにぎわいました。

今年は、踊り子隊と訪問団総勢24人が参加し、姉妹都市積丹町と23年連続でヤーレンソーラン積丹町&香美市※を結成。11・12日の両日、大通公園をはじめとする札幌市内の会場で繰り広げられた本祭に参加しました。

合同チームは、高知県のよさこい鳴子踊りと積丹町発祥の民謡ソーラン節を融合させた楽曲に乗り、笑顔で掛け声を発しながら元気よく踊って、大きな拍手と声援を受けていました。

※香美市19人・積丹町40人の総勢59人の踊り子が参加。



香美市体育協会 功労賞

▲軽快に滑る窪田さん

6月24日、香美市体育協会総会で、同協会に顕著な功績のあった窪田健哉さん(土佐山田町)が表彰されました。

窪田さんは、全日本スキー連盟の土佐山田スキークラブ設立時の会長に就き、国体への出場経験などを活かしながら、クラブ発展に尽力されました。また、土佐山田町体育会スキー部の会長も兼任し、町民参加型のスキーツアーなど、幅広い層がスキーを体験できるような環境づくりに取り組んでこられました。

## 香美市の味覚 北海道へ

香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会(西山武会長)が主体となり、毎年行われている積丹町への訪問・交流事業(6月24~26日)で、12人の訪問団が積丹町を訪れました。

札幌市内からも多くの観光客が訪れる味覚祭りには、今年で21回目の参加となりました。とれたてのウニ・エビなどが入った直径1.5mの大鍋で作る浜鍋など、積丹町ならではの味覚を存分に楽しめるお祭りで、夜間は納涼祭や打ち上げ花火が行われるなど大変な盛り上がりとなりました。

訪問団は、会場で香美市の地場産品である土佐打刃物や、ユズの関連商品を販売したほか、高知県の味覚を代表する鰹のたたきを販売し、なかなかの盛況ぶりでした。



## 認知症を正しく知ろう

6月9日、プラザ八王子で認知症を知る旅・学ぶ旅と題した教室が開催されました。

この教室は、認知症について正しい知識を身につけ、生活習慣を改善していくことを目的としたものです。今回の講義では、認知症の種類や予防方法、生活習慣の注意などさまざまな話があり、参加者たちは真剣な表情で聞き入っていました。



▲同仁病院の猪谷医師と横川ソーシャルワーカーが講義

## 笑顔弾ける園児たち 保育園で夏祭り

7月7日、香美市内の各保育園で、夏祭りが行われました。

当日はあいにくの空模様でしたが、保育士による太鼓演奏や子どもたちの踊りなどの出し物のほか、スーパーボールすくいやヨーヨー釣り、おばけやしき、パズーなど、たくさん催しが行われました。

参加した園児らは友だちや保護者らといろいろなコーナーを巡りながら、夏のお祭りを楽しんでいました。



▲やぐらを囲んで踊る園児たち(あけぼの保育園)

## 社会を明るくする運動

第67回社会を明るくする運動強調月間に合わせて、7月3日に土佐山田町の八王子宮境内で同運動推進委員会主催による決起集会が開かれ、約200人が参加しました。

この運動は、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生に理解を深め、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。集会後には、県警音楽隊を先頭に、パレードや広報車の巡回などが行われ、運動への理解を呼びかけました。



繁藤慰霊祭

7月5日、第46回繁藤山崩れ殉職・殉難者追悼慰霊祭が、哀悼の広場(土佐山田町角茂谷)で行われました。

慰霊祭に先立ち、香長小学校の児童と鏡野中学校の生徒が、自分たちで折った千羽鶴を供え、全員で黙とうをささげました。慰霊祭には遺族や関係者ら約100人が参列し、犠牲者のめい福を祈りました。

繁藤災害は昭和47年7月5日、豪雨による追廻山の崩壊で生き埋めとなった消防団員の救助活動中に、大きな山崩れが発生した大災害です。新改川で流されて亡くなった1名と合わせ61名の方が犠牲となりました。



やまびこ芸能祭

▲根木屋太刀踊りは、今年の湖水祭などでも披露される予定

6月11日、第19回やまびこ芸能祭が奥物部ふれあいプラザで開催されました。

大栃保育園児によるダンスや大栃中学校吹奏楽部・鏡野吹奏楽団による合同演奏のほか、民踊、舞踊、歌、居合道演武などが披露され、大いに盛り上がりました。

また今年も、香美市の無形民俗文化財に指定されている『根木屋太刀踊り』が披露されました。これは、物部町根木屋に伝わる伝統の踊りを復活させようと、住民有志が保存会を立ち上げ、練習に励んできたものです。14年振りに披露された躍動感いっぱいの太刀踊りに、会場からは大きな喝采が贈られていました。